

につなぐ4年間



新たな未来へ、夢と希望、幸せをつなごう — みんなの力で地域共創 —

このたび、市民の皆様をはじめ、各方面からの力強いご支援を賜り、引き続き3期目の市政運営を担わせていただくこととなりました。多くの市民の皆様からの負託を受け、改めてその職責の重さに身の引き締まる思いです。

私は、平成27年5月の就任以来、「全ては市民の皆様のために」という信念のもと、誠実一途に市政の舵取り役を務めてまいりました。これまでの歩みを振り返りますと、1期目は、「震災復興の総仕上げ」、「安全・安心のまちづくり」、そして喫緊の最重要課題である「地方創生・人口減少対策」に取り組み、令和新時代の幕開けとともにスタートした2期目は、次世代への懸け橋となる社会基盤を整備するため、1期目の「地方創生・人口減少対策」、「安全・安心のまちづくり」に、「都市力の向上」、そして「持続可能なまちづくり」を加えた4つの政策を柱として、市民の皆様笑顔輝くまちづくりに取り組んでまいりました。

進することができましたのは、ひとえに、市民の皆様のご支援とご協力の賜物であり、この場をお借りいたしました。心から感謝を申し上げます。

3期目となるこれから4年間の市政については、「新たな未来へ、夢と希望、幸せをつなごう」というスローガンを掲げさせていただきます。

超少子高齢社会における地方創生・人口減少対策をはじめ、幾多の課題が山積している状況にあります。が、これまでの2期8年の歩みを止めることなく、若者・女性の定住、活躍支援や、安全・安心のまちづくり、2025年問題への対応、さらには常陸多賀駅周辺地区整備や幹線道路整備の推進をはじめとする都市力の向上、産業の振興、そしてデジタル化の推進や脱炭素社会の実現をはじめとする「持続可能なまちづくり」などに尽力してまいります。そして、今後とも市民の皆様と歩みを一つにしながら、茨城県北地域の中心都市として、全ての市民の皆様が、未来への夢や希望を描き、安心して健やかに暮らせるまちづくりを力強く推進していく所存であります。

皆様におかれましては、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。3期目の市政運営に当たってのごあいさつといたします。



地域の名産を後世につなぐ (前編)

茂宮かぼちや塾 始動!

毎年6～7月上旬にかけて収穫される茂宮かぼちやは品質も味も良く、市の特産品として知られています。



地域ブランド認定品

「茂宮かぼちや」

日立市は日本有数の工業都市として知られる一方、自然の地形・気候を生かしたさまざまな農業も営まれています。

市南部の久慈川・茂宮川流域は良質な土壌に恵まれ、水稲・野菜の栽培が盛んに行われています。

茂宮地区で栽培される茂宮かぼちやは甘味が強く、ホクホクした食感が特長で、市の地域ブランド認定品に選ばれています。

担い手創出・育成

「茂宮かぼちや塾」

茂宮かぼちやは地元農家で構成する「茂宮特産物研究会」の会員によって栽培されていますが、生産者の高齢化や担い手不足が大きな課題となっています。

市は、この貴重な作物を後世に継承していくため、令和4年度に、茂宮かぼちや生産農家を目指すかたを対象に、栽培のノウハウを学ぶことができる「茂宮かぼちや塾」を開講しました。

令和5年2月の開講式には、20～60代の男女17名が集まり、かぼちや栽培に関する講義を受け、塾生としての第一歩を踏み出しました。



真剣なまなざしで生産者からの説明を受ける塾生

茂宮特産物研究会の茂宮かぼちや栽培カレンダー

2月

- 畑の土づくり
- 畑の草刈り
- 耕起など
- (土の掘り返し)



土を耕し、堆肥などを混ぜ、生長しやすい土を作ります。

3月

- 苗を育てる
- 播種
- (種まき)
- 鉢上げ
- (ポットに移す)
- マルチシート張り
- (元肥の施肥)



温度・水分調整、追肥などで丈夫な苗に育てます。

4月

- トンネルづくり
- 定植(苗植え)
- わし敷き
- (追肥)



苗はツタが伸びる方向に傾けて植えるのがコツです。

5月

- みつばち設置
- トンネル外し
- 殺菌消毒など
- 出来ばえをチェック
- 会員ほかの巡回研修実施
- 目揃え会



出荷前に形・大きさ・重さ・色のほか、試食で味・食感を確かめます。

7月



- いよいよ収穫
- 完熟かぼちやの出荷

収穫後は、ブランド認定シールが貼られ、直売場などで販売されます。

塾生活動レポート

4月15日、雨の中、塾生全員が揃い、塾代表の宮田秋文さんの指導のもと苗の定植作業を行いました。

4月29日には、乾燥などを防ぐため、わら敷きを行いました。



宮田さんが実演しながら、塾生に定植のコツを伝授(①・②)

これから伸びてくるツルを保護するため、均等にわらを敷き詰めるのがポイント(③)

待ち遠しい収穫

順調に生育が進めば6月中旬ごろ、塾生が初めての収穫作業を行う予定です。



【後編】は7月20日号に掲載予定です。

問合せ
農林水産課
内線 402